

## 実践『ペルソナ』通信 (No. 97)

### 「カメラとカメラアプリ」に関する調査

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、女子大学生の「カメラとカメラアプリ」についてアンケート調査を実施しました。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計学科（担当：竹内光悦）」のゼミ生を中心に組織され、実践女子大学生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を研究する研究会です。

#### はじめに

女子大生は日ごろから SNS を利用しています。その SNS の中で Instagram における利用率は約 9 割となっています。現在、SNS において写真が欠かせない存在となっており、写真にこだわりを持つ人が増加しています。そこで今回の調査では、イマドキの女子大生における「カメラとスマートフォンのカメラアプリ」について、調べていきます。

#### 総括

今回の調査を通して、女子大学生の 9 割以上がカメラアプリの使用経験があることがわかりました。内蔵カメラを含めて、各カメラアプリの良さや特徴を捉えた上で使い分けをする人が約 6 割で、撮影場面・被写体によって撮影時間に違いがみられました。

最も人気だった「Ulike」は、「盛れる」「自然」「画質」の面で高評価を受けており、友人との撮影で使用している人が多くいました。さらにカメラアプリを使用している人は「お手軽タイプ」・「こだわりタイプ」に分類することができ、「こだわりタイプ」の方がカメラアプリの所持数が多いことがわかりました。「お手軽タイプ」・「こだわりタイプ」によって最も気に入っているアプリが異なっていました。また、被写体によって撮影時間に違いがみられました。

#### Topics

- (1) カメラアプリの使用経験は 9 割強
- (2) 1 人あたりのカメラアプリ所持数は約 3 個
- (3) カメラアプリに対して重要視しているものは異なる
- (4) カメラアプリを使い分けしている人は 6 割、ノーマルカメラも使用されている
- (5) 写真を撮るときにかかる時間は被写体ごとに異なる

#### 調査担当者

実践『ペルソナ』研究会 瀧本美結・菅原七菜・伊藤佑夏・増田瑤弓

## 調査概要

- 調査対象：実践女子大生 1 ～4 年生
- 調査方法：Google フォームによるインターネット調査
- 調査期間：2020 年 10 月 22 日（木）～10 月 30 日（金）
- 有効回答者数：65 名
- 回答者の属性：1 年生（13.8%）、2 年生（15.4%）、3 年生（61.5%）、4 年生（9.2%）

## 調査結果

### (1) カメラアプリの使用経験は約 9 割

写真を撮る際に最も使用するデバイスにおいて「スマホ」と回答した人は 98%（64 人）、  
「フィルム」と回答した人が 2%（1 人）で 9 割強がスマホを使用していることがわかり  
ました（図 1）。

また、カメラアプリの使用経験では「はい」と回答した人が 95%（62 人）、「いいえ」  
と回答した人が 5%（3 人）と大多数はカメラアプリを使用した経験があるという結果でし  
た（図 2）。カメラアプリを使用しない理由として、iPhone に内蔵されているノーマルカ  
メラを使用している、こだわりのないという意見もありました。

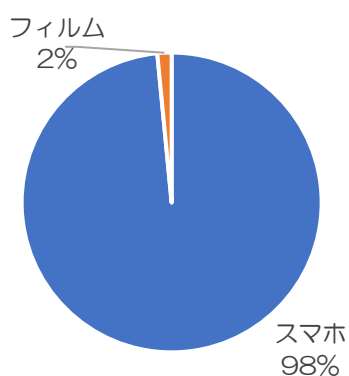


図 1. 写真を撮る際に最も使用するデバイス  
(N=65)

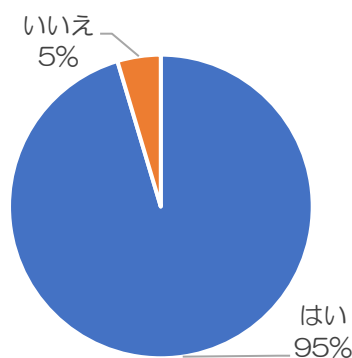


図 2. カメラアプリの使用経験  
(N=65)

### (2) 1 人あたりのカメラアプリの所持数は 3 個

カメラアプリの所持数について「3 個」と回答した人が 26%（16 人）と最も多く、中  
には 27 個も所持している人がいました。カメラアプリを所有している人が大多数の中、  
「現在は持っていない」と回答した人もおり、過去にカメラアプリを使用していた経験があ  
る人も少なからずいました（図 3）。平均は 4.24 個という結果でした。

最も気に入られているカメラアプリは「Ulike」が 40.3%、それに続いて「SNOW」が  
14.5%という結果になりました（図 4）。「Ulike」を選んだ人の理由として「盛れる」と回  
答している人が多いことがわかりました。

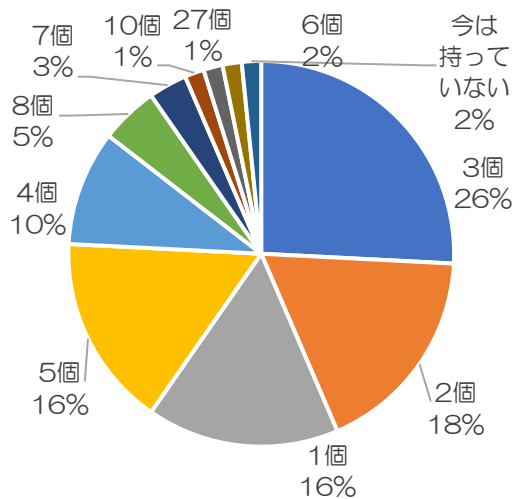


図3.所有しているカメラアプリの数 (N=62)

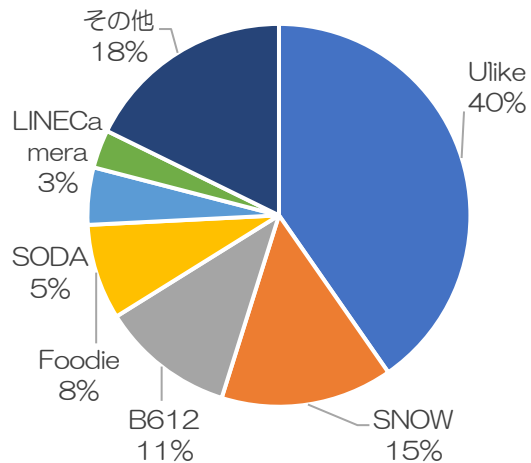


図4.最も気に入っているアプリ (N=62)

### (3) カメラアプリに対して重要視しているものは異なる

カメラアプリの機能における「高画質」・「フィルターの多さ」など 8 項目の重要度について注目し、クラスター分析を行い、2 つのクラスターに分類しました。

1 つめのクラスターは、「加工が簡単」・「手ブレ補修機能」・「フィルターの多さ」・「スタンプの多さ」を重要視していました。このような特徴からクラスター名を「お手軽タイプ」としました。2 つめのクラスターは「加工が簡単」・「手ブレ補修機能」・「フィルターの多さ」・「スタンプの多さ」を重要視していませんでした。このような特徴からクラスター名を「こだわりタイプ」としました。

対象者は、クラスター2の「こだわりタイプ」が最も多い結果となりました(図5)。

カメラアプリの使用場面では「こだわりタイプ」は「食べ物を撮るとき」・「私物を撮るとき」に使用している人が「お手軽タイプ」と比較して多いことがわかりました(図6、図7)。

また、「最も気に入っているアプリ」では、「お手軽タイプ」・「こだわりタイプ」とも共通して「Ulike」・「SNOW」を最も気に入っていました。しかし、「B612」は「お手軽タイプ」のみに支持されており、「Foodie」は「こだわりタイプ」のみに支持されていました(図8、図9)。

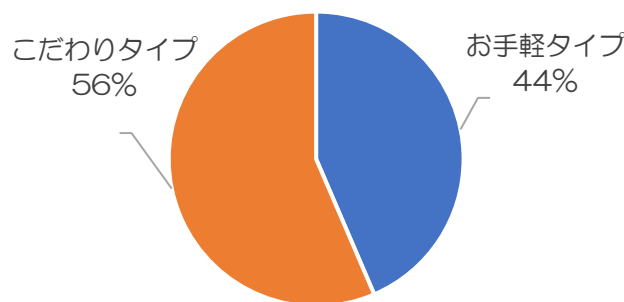


図5.クラスター分析の結果 (N=62)

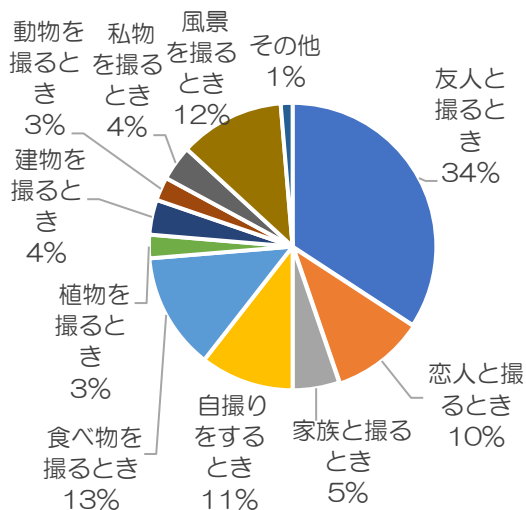


図 6.「お手軽タイプ」のカメラアプリの使用場面（複数回答）(N=27)

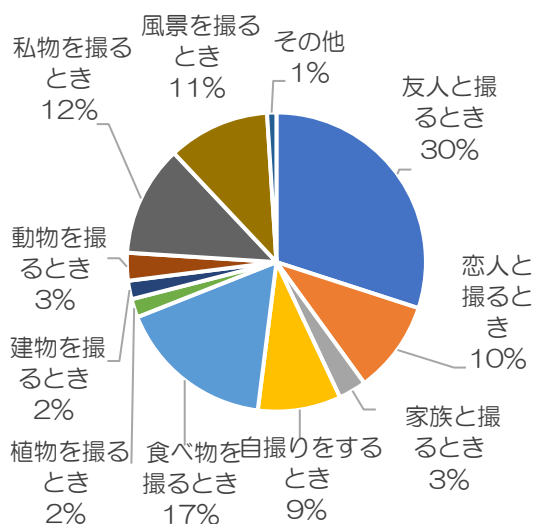


図 7.「こだわりタイプ」のカメラアプリの使用場面（複数回答）(N=35)

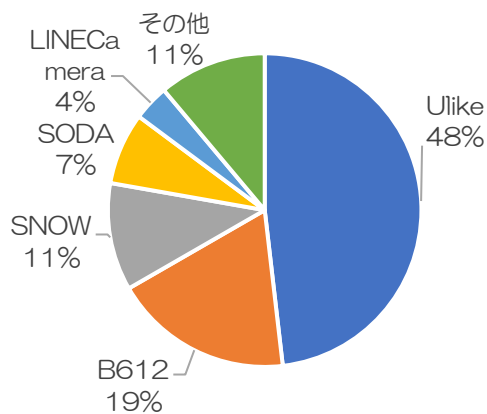


図 8.「お手軽タイプ」の最も気に入っているアプリ (N=27)

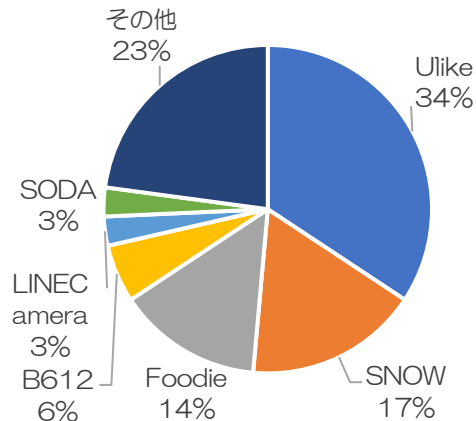


図 9.「こだわりタイプ」の最も気に入っているアプリ (N=35)

(4) カメラアプリを使い分けしている人は6割、ノーマルカメラも使用されている

カメラアプリを使い分けしているか聞いたところ、「はい」と答えた人が61.3%「いいえ」と答えた人が38.7%という結果になりました（図 10）。

どのように使い分けをしているか聞いたところ、フリーコメントではUlikeは友達との自撮り、foodieは食べ物の撮影に使うという意見が多くみられました。食べ物や風景の撮影にはiPhoneの内蔵カメラを使うという意見もあり、内蔵のカメラも含めてアプリの特徴ごとに使い分けがされていることがわかりました。

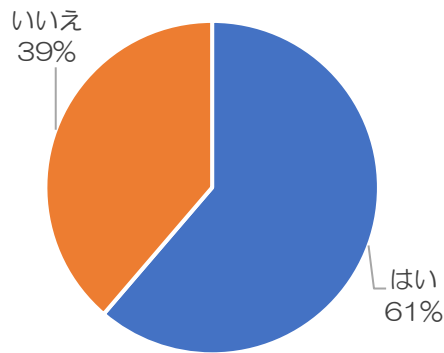


図 10.カメラアプリを使い分けているか (N=62)

(5) 写真を撮るときにかかる時間は被写体ごとに異なる

写真を撮る際にどのくらい時間をかけているかを被写体ごとに聞いたところ、自撮り、風景、食事、購入品のすべての被写体で「30秒未満」と答えた人が最も多い結果となりました。特に食事を撮る際にかかる時間は全員が「3分未満」に収まる結果となり、短い時間で食事の写真を撮ることがわかりました。理由としては食事が冷めないうちに早く写真を撮っていることが考えられます(図 11)。それに対して、自撮りを撮る際にかかる時間は、「5分以上」の時間をかける人「撮らない」と答えた人も見られました(図 12)。

「お手軽タイプ」・「こだわりタイプ」で撮影時間を比較してみると、「お手軽タイプ」は長くても「1分以上5分未満」でした。しかし、「こだわりタイプ」では、食事を撮影する場面を除き、「5分以上10分未満」と回答している人がいました。さらに、「こだわりタイプ」では「10分以上」と回答した人もいました。撮影時間だけでなく、写真の加工に費やす時間も「こだわりタイプ」の方が長かったことがわかりました。

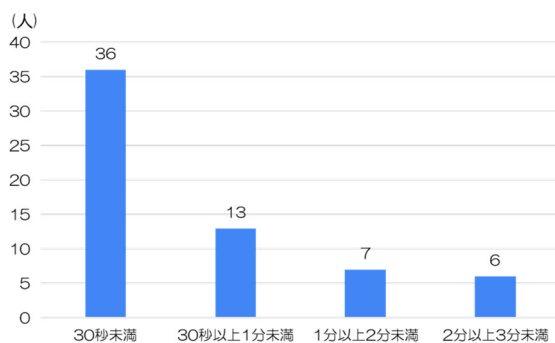


図 11. 食事を撮る際にかかる時間 (N=62)

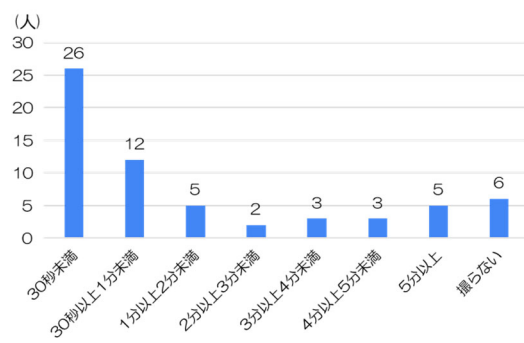


図 12. 自撮りを撮る際にかかる時間 (N=62)

## 考察

今回の調査から、女子大生は写真撮影をするときに使用するデバイスはスマホが多く、大多数がカメラアプリを使用した経験があることがわかりました。カメラアプリの所有数は、約半数が1~3個という結果でした。対象者の中で最も人気だった「Ulike」は「自然に盛れる」「きれいに映る」などの点を網羅した点で高評価を受けていることがわかりました。

カメラアプリを使い分けている人が6割おり、フリーコメントでは「Ulikeは友達との自撮り、foodieは食べ物の撮影に使う」という意見が多くみられました。また、LINEカメラは加工に使用したり、食べ物や風景の撮影にはiPhoneの内蔵カメラを使用するという意見もあり、内蔵のカメラも含め女子大生はアプリの良さや特徴ごとに使い分けしていることがわかりました。

また、カメラアプリにおける重要視しているものに注目してクラスター分析をおこないました。「お手軽タイプ」・「こだわりタイプ」共通して「高画質」・「自然に盛れる」・「暗闇でも綺麗に撮れる」という点を重要視していました。「お手軽タイプ」は、「友人と撮るとき」・「風景を撮るとき」・「食べ物を撮るとき」にカメラアプリを使用していました。しかし、「こだわりタイプ」では、「友人と撮るとき」・「食べ物を撮るとき」・「私物を撮るとき」にカメラアプリを使用していました。カメラアプリの使用場面に影響して、「お手軽タイプ」・「こだわりタイプ」の間において「最も気に入っているアプリ」に違いが表れたのではないかと考えられます。「お手軽タイプ」ではカメラアプリの所持数は1~8個の幅でしたが、「こだわりタイプ」では、1~27個の幅でした。このことから「こだわりタイプ」は複数のアプリを使用し、加工や撮影をしているのではないかと考えられます。カメラアプリに対して重要視しているものに変化が見られたように、「お手軽タイプ」と「こだわりタイプ」においてインスタグラムをはじめとしたSNSに投稿する写真の加工の仕方や写真の構図において両者の間でどのような違いが見られるのかが気になりました。その為、B面においてインスタグラムなどのSNSにおいてどのような写真を投稿しているということも追及してみたいと思います。

写真を撮る際にかける時間は自撮り、風景、食事、購入品のすべての被写体で「30秒未満」と答えた人が最も多い結果となりました。「お手軽タイプ」・「こだわりタイプ」で撮影時間を比較してみると、「お手軽タイプ」は全体的に撮影時間が短く、「こだわりタイプ」では、撮影時間が長い傾向が見られました。さらに、撮影時間だけでなく写真の加工に費やす時間も「こだわりタイプ」の方が長かったことがわかりました。

今回の調査によって、女子大学生は場面と用途によって各カメラアプリの良さを捉え、使いこなしていることがわかりました。スマホの普及によって誰もが手軽に写真を残せるようになった今、これからもカメラアプリの需要が増えてゆくことが考えられます。